

人生を拓く

37

五十嵐 政好さん (87)
澄子さん (82)
西町一丁目

政好さんは、父儀作さん（昭和52年、77歳で逝去）、母ハルさん（同58年、同）の9人兄弟4番目の二男として東11号で生まれました。

父親は福島県から開拓移住した小作農家で、石がごろごろと多い畑2町歩（1町は1畝）、荒地7反（0・7畝）に苦勞の連続だったようです。第三尋常小学校高等科を卒業後、14歳ですぐに家業の農家手伝いに入りました。

1944（昭和19）年、14歳の政好少年は村推薦を受けて村内12人、道内300人の農兵隊（援農隊）として終戦まで全国各地へ。「小清水（網走管内）を皮切りに1カ月ずつ回ったよ。内地は千葉、群馬、三重にも行ったな。終戦の年の3月、東京大空襲の時に東川に帰ってきただ。もう少し遅かったら大変だったな」。

戦後、1950（昭和25）年に警察予備隊が設立されると20歳で志願し、2年間務めました。

実家は5歳上の兄が継ぐことになっていましたが「出家してな」と急きよ呼び返されることに。22歳の時、農地解放払い下げで5町歩に広がった農家を継ぎ



ました。

1957（同32）年、27歳の時、東山村西達布（現富良野市東山地区）の澄子さんと見合い結婚。分家して小作地を借り、水田と酪農、めん羊の複合経営を始めました。乳牛2頭の育成からスタートし、10年間に5頭まで規模拡大。その間に米の生産量も大幅に伸びたそうです。「酪農やることで地力がよくなって、周りより2割くらい良かったな。厩肥（きゅうひ）使うようになって地割れしなくなったな。肥料の効きも良かったよ」と最高で米100石（約250俵）を収穫したことも。優良米生産農家で5回以上表彰も受けました。

「借金もせんで機械も入れてやった」と60歳まで農業と土建業を兼業し、無借金経営してきたことが誇り。

1991（平成3）年、農機具の更新切り替え時期を機に61歳で農家を引退し、無借金で現在の自宅を建てました。

今は長男（57）一家と同居し、時々所有林に出掛けて山の手入れ、薪割りをし、澄子さんと二人で自宅の畑の出来具合を楽しみにする日々です。

俳句

ひと粒はダイヤモンドか新樹雨

草笛ややと出ましたバツハの音

退院の一步を包む新樹光

ふみ入ればざわつく新樹のブナの森

老木の世代を継ぎし新樹かな

あの頃は飛ぶ意味も知らず毛たんば

新樹から吹き抜ける風胸涼し

新樹道色とりどりのランドセル

草笛にひくひくひきんと馬の鼻

山裾は揺れる新樹のフリル付き

青水無月無口な夫の淹れし茶と

ふくらみの奥を覗けばさくら色

幼子を膝に雲見て草笛よ

飛び立ちし小鳥の声かくさぶえか

繰り返しめくる絵本に新樹光

運び屋のたんば雲のアイツまで

小林ろば

杉山ひろのり

保科なほ

徳光吐苦

杉山りつ

こばやし 星来

横田則子

高瀬潤

石澤清宏

三島智

若田郁

本田咲

佐々木りえ

斎藤夕桜

山内みゆ

由川真人

